

大阪市立住吉川小学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付】実施報告書
(補足説明資料)

本校では、「小学校経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる」ことを年度目標とし、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、「小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる」と「小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる」ことを設定した。

上記を達成するために、以下の 1 つの取組を行った。

1. 取組内容について

1－1. 取組を実施する必要性

本校では、平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の国語 A・B では、大阪市平均を約 5.5 ポイント下回っている。特に A の「読むこと」と B の「話すこと・聞くこと」で差が出ている。算数 A・B でも大阪市平均を 8 ポイント下回っている。特に A の「量と測定」B の「数量関係」「図形」で差が大きい。

また、平成 30 年度の小学校学力経年調査では、6 年の算数・理科は、市平均を上回った。しかし他の学年・教科においては市平均には届かなかった。学校全体として特に市平均の 7 割に満たない児童の割合が高いため、より個に応じた指導が必要であると考えた。

そこで、「基礎学力の定着」や「家庭学習の習慣化」ができていない児童の学習意欲を高めるために、ICT 機器を効果的に活用した授業を実践することとした。

1－2. 取組を実施することにより期待できる効果

「ICT 機器の活用により、児童の学習意欲を向上させ、母集団全体での対象児童の単元テストの正答率の向上につなげる」ことが期待できる。

1－3. 具体的な実施内容

①デジタル教科書の活用

国語科や算数科で、デジタル教科書を日々活用し、視覚・聴覚的にわかりやすい授業を行う。

②書画カメラ・タブレットの活用

タブレットのカメラ機能を使い、子どものノートや考えを学級全体で共有する。タブレットドリルを活用して、学習内容の定着を図る。

1－4．取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：A

・評価理由：

7割に満たない⇒6年は4.2ポイント、5年は、3.7ポイント減少した。

4年は、2.3ポイント増加した。

2割以上上回る⇒6年は5.6ポイント、5年は、1.3ポイント増加した。

4年は、2.7ポイント減少した。

以上の成果から、A評価とした。

2．総論

2－1．年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより、「小学校経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる」という年度目標に対して、「5・6年生は、前年度より0.7ポイント向上」することができた。また、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、「小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる」と「小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる」ことを設定し、これに対して、「7割に満たない⇒6年は4.2ポイント、5年は、3.7ポイント減少」「2割以上上回る⇒6年は5.6ポイント、5年は、1.3ポイント増加」という成果を得ることができた。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「A」評価とした。

全国学力・学習状況調査では、平均正答率が全国・大阪市平均より下回っており、昨年度より差が大きくなった。国語科では、特に「話すこと・聞くこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の差が大きかった。「書くこと」は、全国・大阪市平均を上回っていた。表やグラフなど視覚的なものから読み取る力は育っているが、相手の意図を捉えながら聞く力と漢字、ことわざの知識・理解が弱いことが分かった。

小学校学力経年調査では、上記にあるように5・6年で目標以上の成果を達成することができた。特に算数科については、近年、正答率が上がってきているのは、継続した習熟度別少人数授業により、一人一人にあった丁寧な指導の成果である。今後も習熟度別少人数授業により、「基礎学力の定着」を図り、児童が主体的に学ぶことができるように授業改善に努めていく。

2－2．学校協議会における意見

住吉川小学校の児童のことを第一に考えて、学力の向上・自尊感情の育成を中心に取組んでおり、今回、目標を達成できている所が多く、学力も向上している。特に5・6年での充実が見事である。目標に向かって努力をされている先生方には感謝している。今後も児童の実態にあった適切な目標を設定して行ってほしい。